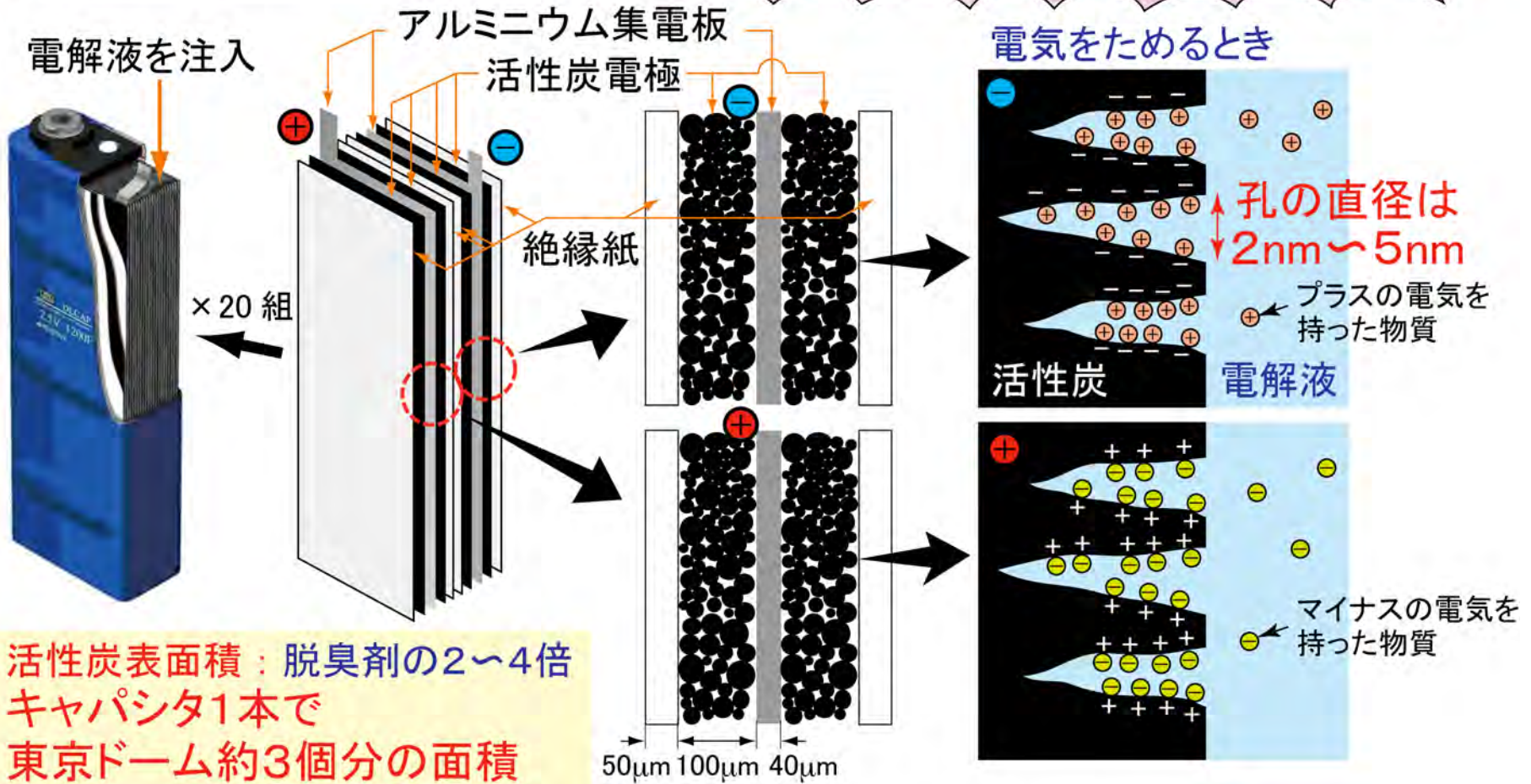


キャパシタの構造と蓄電のしくみ

環境に優しい材料のみで構成

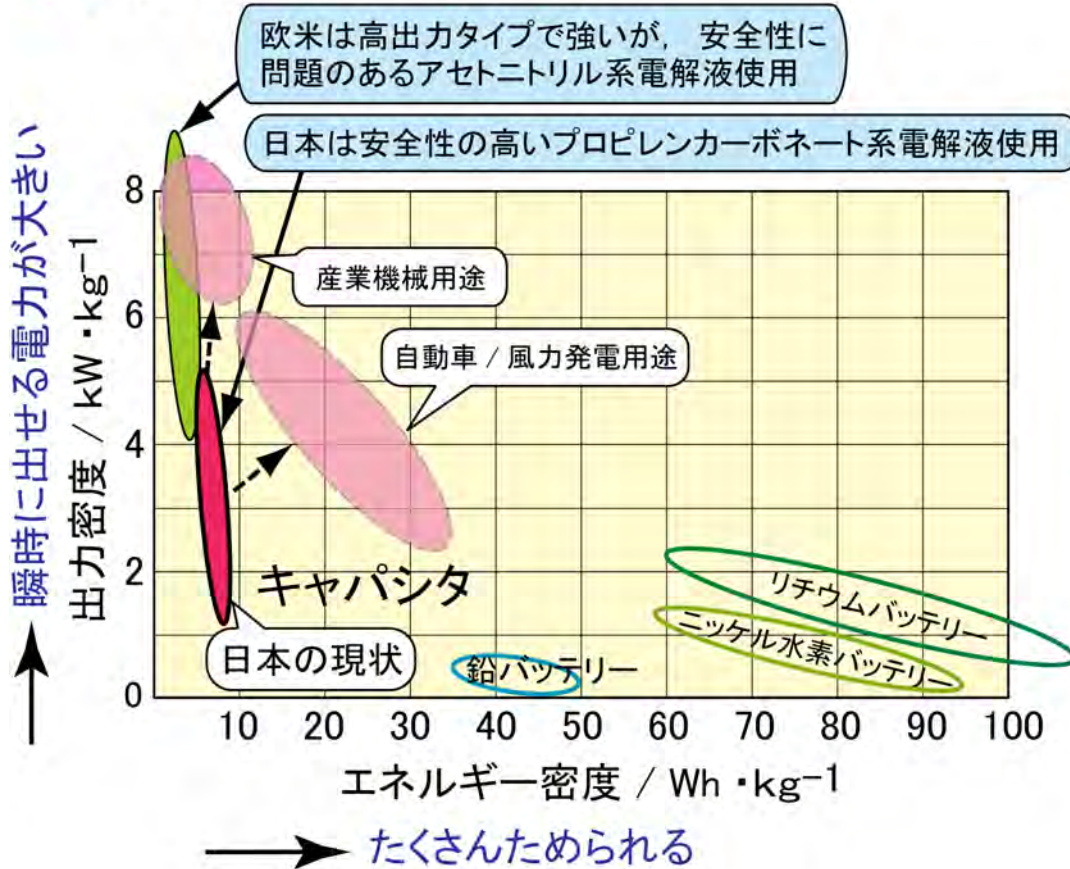
日本のナノテクノロジー・材料技術の強み



活性炭表面積：脱臭剤の2~4倍
キャパシタ1本で
東京ドーム約3個分の面積

国際競争力と市場予測

● 日本と欧米における開発の方向性



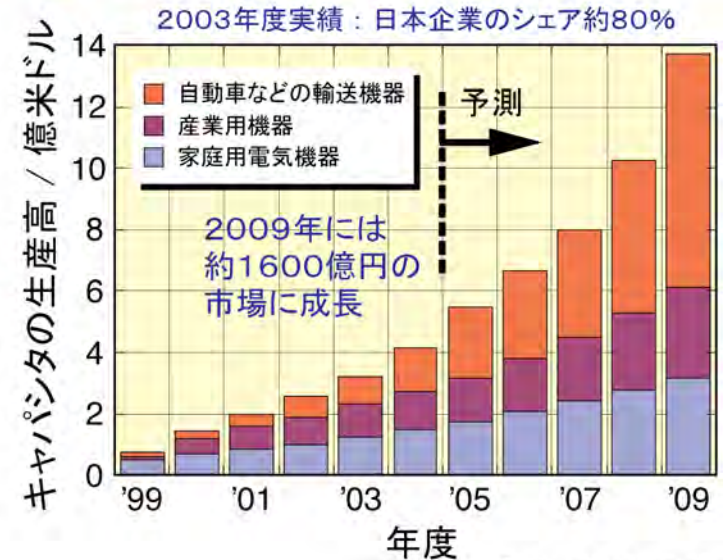
提供：日産ディーゼル工業

● 累積特許出願数 (1978～2005)

国内	松下電器産業	557件
	旭硝子	377件
	NECトーキン	107件
海外	EPCOS (独)	41件
	Maxwell (米)	18件
	NESS (韓)	8件

提供：産業技術総合研究所

● 世界市場予測

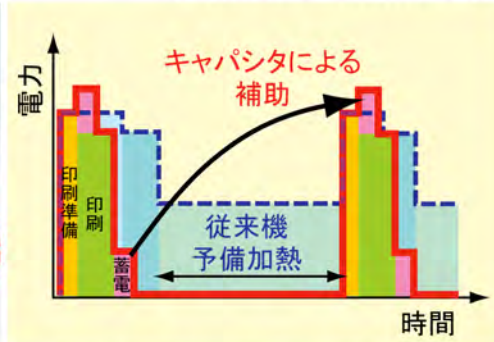


提供：日本ケミコン

キャパシタの将来展望

● コピー機

提供：リコー、日本ケミコン



キャパシタの電力で急速起動。従来機5分の起動が30秒で可能に。約60%の消費電力削減。

● トラック

提供：日産ディーゼル工業



燃料消費量は従来のディーゼル車の65%以下。窒素酸化物はディーゼル車に対して44%減少。

● 風力発電

提供：富士電機システムズ



風の強弱によって変動する電力をキャパシタに蓄えて、安定した電力を供給する。風力発電事業所で稼働中。

● 電車

提供：JR 東海、東芝、日本ケミコン



ブレーキ時に架線へ戻す電力をキャパシタに蓄えて、動力として利用する。架線レス路面電車等への展開に期待。